

平成 30 年度 第 1 回債権管理・回収等検証委員会 議事要旨

1. 日時 平成 30 年 11 月 6 日（火）15：00～17：00
2. 場所 グランドヒル市ヶ谷 東館 2 階 白樺（東）
3. 議事
 - （1）開会
 - （2）理事長挨拶
 - （3）奨学金制度に関する最近の施策について
 - （4）返還金の回収状況及び平成 29 年度業務実績の評価について
 - （5）平成 29 年度委員会報告を受けた平成 30 年度の取組について
 - （6）平成 30 年度債権管理・回収等検証委員会における審議テーマ（案）について
 - （7）自由討議
 - （8）今後の予定について
4. 出席者
 - （◎委員）50 音順
岩田委員長、内田委員、小川委員、提坂委員、杉山委員、須田委員、宗野委員、
中井川委員
 - （○文部科学省）
塩崎学生・留学生課長
 - （●機構）
遠藤理事長、大木理事長代理、大谷理事、前畑奨学事業戦略部長、
松田貸与・給付部長、石川返還部長、谷江債権管理部長、森奨学事業戦略課長
（△分析業務委託業者）PwC あらた有限責任監査法人
5. 議事概要
 - <奨学金制度に関する最近の施策について>
 - マイナンバーの収集について
 - ◎マイナンバーの収集について、昨年度は所得連動返還方式を選択した人のみ提出だったが、今年度は全員から収集しているのか。
 - 今年度は、予約採用について、本人・家計支持者にマイナンバーの提出を求めている。
 - また、返還期限猶予については、昨年度は生活保護世帯のみ提出であったが、今年度 9 月より返還期限猶予を願い出た全員から提出していただくこととなっている。

◎在学採用の申込者からも、提出させるのか。

●次年度より提出予定である。

■「進学マナー・ハンドブック」について

◎高校教員向け「進学マナー・ハンドブック」は、更新しないのか。

●現在、高等教育の無償化について議論がされているところであり、その内容も含めたいと考えているため、内容が明確になってから更新したいと考えている。更新内容・時期については、文部科学省と調整の上、進めていきたい。

<返還金の回収状況及び平成 29 年度業務実績の評価について>

特段意見なし。

<平成 29 年度委員会報告を受けた平成 30 年度取組について>

■SMS について

◎現代の若者のほとんどがスマートフォンを活用しており、SMS は大変有効な取組みであると考えていたが、最近では、SMS を悪用した詐欺の事例があるようだ。そういったことに対する対策は考えているか。

●現状、機構ではそういった詐欺が起こったという事例はない。セキュリティ面を勘案しつつ、必要に応じて対応を検討していきたい。

◎無作為に送信された SMS に記載の URL から機構ホームページに似せた悪質サイトに誘導させる危険性もあるため、悪用される可能性があるということを念頭に置いておいた方がよい。

◎リンクで悪質サイトに誘導するのは典型的な手口である。金融機関においては、ネットバンク等へのウイルス攻撃などの報告も出ている。SMS にリンクをそのまま貼るのではなく、改めてホームページにアクセスしてもらうように誘導すれば詐欺にかかることはないと思う。注意喚起の通知を出す等の対策もよいのではないかと思う。

●機構の SMS について、リンク先で情報を収集するのではなく、ホームページの掲載情報を確認してもらうための誘導であることから、詐欺にかかる可能性は低いと思われる。

<平成 30 年度債権管理・回収等検証委員会における審議テーマ（案）について>

特段意見なし。

<自由討議>

■学校と機構の業務負担の軽減について

◎本人、保証人に奨学金を借りているということを意識させることが重要であり、各

大学でも機構に支援してもらい、奨学業務に取り組むことが必要であると考えている。大学でも周知に努めているところであるが、スカラシップ・アドバイザー派遣事業など、返還意識の涵養に関する機構のサポートはありがたい。

給付奨学金や所得連動返還方式等の新しい制度が増えたことにより業務負担も増えるため、事務を簡素化する方法を考えるべきだと思う。勤務している大学では基本的に情報はスマートフォンを使用した収集を主流としている。本人認証については、画像貼付等で提出されたデータを画像解析システム（AI）等を活用して確認している。時代に合わせた形で必要な情報を収集し、有効に活用していくことが望ましいと考えている。また作業の効率化で、機構の事務負担を減らしたうえで、余力があれば大学への援助について検討していただくとありがたい。機構と大学が協力して学生を導くべきだと考えている。

●マイナンバーの提出については、例えば、スカラネット・パーソナルとマイナポータルとの連携などを模索しており、いずれは紙で提出されたものを電子化できないかと検討しているところ。

●採用関係の事務処理等について、学校関係者あるいは、奨学金をもらう本人の手間について、どのように考えていくのかということかと思う。学校関係者からは、機構の奨学金に関係する煩雑な事務手続きについて、ご意見をいただいております、学校と協力しながら、少しずつ改善してきているところである。

事務的な面で合理化し、お互いの負担感を軽減していく取組は必要だと考える。

スマートフォンの利点を生かした取組みができるか等については、別途検討していきたい。

○事務負担の軽減について、今後も機構・大学等と連携して改善を図っていきたい。

●奨学金申込みにおいて複雑な仕組みを分かりやすく伝えなければならないことは認識しており、例えば、スカラシップ・アドバイザー派遣事業や、「進学マネー・ハンドブック」等を活用して、極力分かりやすく・読みやすく情報提供する努力をしている。

根本的に奨学金とは何なのか、ということがベースにあり、入口（予約採用・採用時点）・真ん中（貸与中）・出口（返還開始）において、出来るだけ説明をしっかりと、分かりやすくしていくといった努力をするとともに、機構と学校との二人三脚、また保護者を加えた3者のステークホルダーが手を取り合って円滑に事務を進めていくことが必要である。

■電子化について

◎手続の電子化については、書類ベースの手続だと、どうしても保管・廃棄の話が出てくる。電子化したら、書類の保管場所、保管のための業務と経費が不要となる。本人認証の問題はあるが、人的なコストをかけず、電子的に記録に残すということ

について、検討していくことは良いと思う。現行のシステム改修と整合をとるような形で進める必要はあるが、 unnecessary書類は減らし、本人確認をとったデータを残しておくシステムにすることで、機構の事務処理の負担を減らすとともに、訴訟で必要な証拠を確実に保存することが可能になると思う。

■奨学金貸与前の情報提供について

- ◎ここ数年、奨学金貸与前の情報提供について、かなり改善されてきていると思う。スカラシップ・アドバイザー派遣事業について、教育の現場では手を付けにくく親任せにしていた経済的・金融的な教育を機構でサポートしてもらえるのはありがたい。また、率直に、当年度分回収率 96%という点については、非常に驚いており、これ以上何を改善していくのかという段階にきていると理解している。

■保証制度について

- ◎保証制度について、教育の現場では、人的保証を勧めておらず、借りる本人も人的保証の選択を希望していないことが多い。それは、奨学金申込段階で、生徒本人が、親に頼らず自分が借りるという意識を持っているからであり、またそういった意識は、生徒にとって奨学金を借りて勉学に励むことのモチベーションにもなる。このため、機関保証を選択する際に、これまで以上に詳細な親族情報の提供を求める等、厳しい条件はつけないで欲しい。

- ◎保証人への債権回収問題の報道で、一部の報道の最終的な結論として、機関保証制度を拡充すべきという論調であった点は、見識あるものだったと思う。

- 所得連動返還方式の利用者は、機関保証を選択しなければならないが、機関保証は保証料が取られるため敬遠されると言われたことがある。例えば、有利子(第二種)で人的保証を選択すると、無利子(第一種)の機関保証選択者より、実際の奨学金振込額が多い事がある。そういったことが、機関保証選択者が5割を切っている一因であると考え

そもそも所得連動返還方式を選択する生徒が全体の20パーセント未満と少ない。その要因としては、機関保証を選択しなければならないからと推測していたが学生の声を聞くと、所得が上がった場合に返還額が増えるのを避けたいという理由が大きく、保証料の支払いが問題ではなかった。

連帯保証人の自己破産の防止という観点からも、機関保証を選択する方が望ましいと考える。

■スマートフォンの利用について

- ◎スマートフォンの利用について、金融系の業界では、7～8年前からスマートフォンやパソコンで教育ローンの申込受付を開始している。現在では、全体の40パーセ

ントがスマートフォンやパソコンからの申込みである。金融機関側としては、最終的にデータの入力（申込み）は申込者本人がするため、業務負担の観点から言うと、効率的な仕組みになっていると思う。

- 貸与額や返還額等の本人情報が分かるスカラネット・パーソナルは、現状パソコンからの利用に限られるが、スマートフォンでの利用について対応を検討中である。

■卒業後のフォローアップに係る検討について

◎大学としては、卒業後、なかなか仕事に就けない、低賃金等の問題等と併せて返還金が高額であると、世帯形成の遅れの原因にもなり、返還に係る負担は大きいと考えている。また、最近の学生は、お金に対しての感覚が非常に鈍いと感じており、スカラシップ・アドバイザー派遣事業や、「進学マネー・ハンドブック」の作成・配付等、卒業後を見据えて、経済感覚を養う意味で、積極的に指導することができるようなスキームを作ってもらっていることはありがたい。

- スカラシップ・アドバイザー派遣事業については、高等学校等への派遣について、一定の評価をいただいているところであり、また大学等のオープンキャンパス等への派遣についても順調にすすめているところである。

大学入学後の学生向けに実施して欲しいあるいは大学の授業で実施したい等、大学進学後の学生に対するフォローについても、要望をいただいているところだが、高等学校等への派遣は、クラス単位・学校単位での実施が容易であり非常に趣旨を徹底しやすい。一方、大学等は学生数の規模も異なるので、よく大学等とご相談し、どのような実施体制をとれば、大学等にとって最も効果的であるのかを検討したい。

◎スカラシップ・アドバイザーのガイダンスについて、ネット配信をして、ガイダンスを聴講したことを確認するため感想文を出してもらうという手法も考えられる。

<今後の予定について>

- 次回の日程調整の連絡は改めて行う。

以上